

心のこもった声で

人間を真の人間たらしめているものは“言葉”であり、その言葉を言葉たらしめているものが“声”です。だから、その“声”は、他の音とは違って、左側の大脳がこれを処理しているのであって、これを“優位の脳”と呼んでいます。

だから、赤ちゃんに“声”を掛ける時は、心をこめて語りかけなければいけないのです。はっきりと、他の音と違った扱いをしなければいけないのです。そうすれば、赤ちゃんは、その声に心を感じ、赤ちゃんも心をもってそれに応じようと努め、声を出そうと努めます。こうして、赤ちゃんは“声”に応ずることを覚え、大脳の左側の部分を発達させていくわけです。

ところが、テレビやラジオは、人間の声であっても、それは“機械の音”に過ぎません。赤ちゃんに語りかけられたものではありません。また、赤ちゃんがそれに答えたとしても、テレビやラジオはそれに反応しません。一方的に聞こえてくるだけですから、恐らく、人間の声であっても、右側の大脳で処理されるのだと思います。だから、右側の大脳だ

けが発達するのではないか、と思うのです。つまり、左側の脳が発達しないのではないか、と思うのです。

それはともかく、赤ちゃんには、初めに、人間の声とその他の音とを、はっきりと区別して反応するような与え方をする必要があります。人間の声に対する反応を鈍くしてしまったらおしまいですから……。

人間の声もその他の音も同じように与えるテレビやラジオは、生後の三年間くらいは、ぜひ避けるようにすべきだと思います。生後の三年間に、人間の声とその他の音との違いをよく認識させておけば、大脳が左右ともよく発達するので、あとは、テレビやラジオが役に立ちこそすれ、決して有害なものにはならない、と私は思っています。